

全国道場少年剣道大会(全日本少年剣道錬成大会)のあゆみ

第1回全日本少年剣道錬成大会(昭和41年7月31日)は、大麻勇次初代会長を始め、当時の役員一同の多大なる努力により、幾多の困難を乗り越え盛大に開催するに至りました。

大麻初代会長はご自身の剣道生命をこの大会の開催にかけられ、時の佐藤栄作総理大臣に体当たりで面談、「次代を担う少年の指導は、我が民族の生みの親、育ての親は、武道にあり、その表芸は剣道です」と陳情し、佐藤総理大臣のご理解をいただきました。本大会の開催に際して、佐藤総理より激励の祝辞を頂くと共に、力強い「魂」の揮毫を頂戴いたしました。開催に向けては幾多の苦難に直面したものの、大麻会長の斯道に対するご意志は強く、全国注目の中に正力松太郎武道館初代会長を始め、当時全日本剣道連盟会長であった木村篤太郎先生方のご臨席のもと、国民体力づくり事業協議会、日本武道館と三者共催にて開催されました。

記念すべき第1回大会、少年剣士の範たらんと持田盛二範士十段、大麻勇次範士十段の堂々の入場は誠に壮観であり、他 錚々たる先生方を迎えての模範試合、大麻範士十段に対して小川政之範士九段、紫垣正弘範士八段、小沢武水戸東武館館長、小笠原三郎範士八段、佐々木安夫教士八段のかかり稽古と切り返しの模範演武等が示され、少年少女剣士育成の志のもと、かくして全日本少年剣道錬成大会は盛会にして意義高く誕生いたしました。

年度	団体戦	個人戦	会 長	出 来 事
昭和41年	第1回		大麻 勇次	第1回全日本少年剣道錬成大会の開催。主催：日本武道館、全日本剣道道場連盟、国民体力づくり事業協議会
昭和45年	第5回		大麻 勇次	全日本少年武道錬成大会 剣道之部 全日本少年剣道錬成大会(主催:日本武道館、主管:全日本剣道道場連盟)として開催。(第5回から第9回まで) ハワイ選手が初参加し、日米紅白対抗試合の公開演武が行われた
昭和50年	第10回		小沢 丘	日本武道館、全日本剣道連盟共催で行われた
昭和51年	第11回	第1回	小沢 丘	カナダ、ブラジル、ハワイ、アメリカ、フランス、スイス、イタリア、スウェーデン、韓国、台湾、シンガポールの参加により国際剣道大会を開催
昭和52年	第12回	第2回	小沢 丘	本大会より、当連盟の主催大会となる。高松宮両殿下のご臨席を賜る。海外14カ国から選手が参加。この年より二日間の開催となる
昭和53年	第13回	第3回	小沢 丘	この年より、決勝トーナメントを行う。「真実」日本一を決める大会となった
昭和55年	第15回	第5回	小沢 丘	剣道界の代表的範士の先生方および全日本剣道選手権大会の第1回から第27回までの優勝者、警視庁師範を元立ちに迎え、基本錬成が行われた。
昭和56年	第16回	第6回	小沢 丘	アメリカより日系二世、三世の少年剣士が特別参加
昭和60年	第20回	第10回	小沢 丘	全国大会20回を記念し、文部大臣より剣道道場普及発展に貢献した道場主40名に対し、感謝状が贈られた。また、連続20回、大会に出場した道場には記念品を添え表彰した。基本錬成では八段以上の高段者約60名による少年剣士指導が行われた
昭和62年	第22回	第12回	小沢 丘	中学生の部に外国混成チーム(カナダ、アメリカ、西ドイツ、フランス)が参加、小学生の部に香港東信館道場が特別参加
昭和63年	第23回	第13回	小沢 丘	外国混成チーム、香港チームの特別参加
平成元年	第24回	第14回	松永 光	香港、ハワイチームが三回戦進出(これまで海外チームは一、二回戦敗退であった)